

令和5年度 第1回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

1 日時

令和5年9月13日(水) 10時 から 11時30分 まで

2 場所

福岡市役所5F 501会議室(オンライン併用)

3 出席者

定村委員、平井委員、猪野委員、内野委員、清水委員、鳥越委員、松浦委員、シグデル委員、吉住委員 (欠席:荒牧委員、張委員、関根委員)

4 開会

委員紹介

5 議題

(1) 委員長、副委員長の選出について

- ・委員長は、委員の互選により定村委員を選出
- ・副委員長は、委員の中から平井委員を委員長が指名

(2) 令和5年度におけるユニバーサル都市・福岡の推進について

- ・事務局より、資料2に基づき内容を説明

委員からの主な意見

- ウェルビーイングやSDGs、インクルーシブ、ダイバーシティなど価値観が多様化する中で、ユニバーサルデザインの考え方も広がりを見せ、より重要なものとなっている。
- コロナ下においては、外出機会が減ったことに伴い、市民がユニバーサルデザインを意識する場面も減ってしまった。
- 更なる普及啓発のためには、情報保障の観点からも、障がい者など当事者の視点に立って広報を行うことが重要である。
- 高齢者と若者では情報収集のツールが異なるため、年代別に情報発信の方法を考えていく必要がある。

- 福岡市は、バリアフリー化などを進めており、障がい当事者側から見ても、外出しやすいまちになったと実感しているが、引き続き取組みを進めていただきたい。
- 市民が身近な生活の中でユニバーサルデザインやユニバーサル都市・福岡に関連する取組みを実感できると、さらに普及が進んでいく。
- 外国人やその子どもたち、LGBTQの方などが安心して生活でき、住みやすいまちづくりに取り組んでいただきたい。
- 「ダイバーシティマップ」のように、様々な取組みを見える化したサービスマップがあると、市民の理解促進につながるのではないかな。
- 新たな基本計画の策定に向けた検討の中で、成果指標のあり方についても検討していただきたい。
- 各局が自発的にユニバーサル都市・福岡のロゴマークを取組みの中で活用すれば、広報効果が高まっていくのではないかな。
- 各局の取組みが、ユニバーサル都市・福岡の「みんながやさしい、みんなにやさしい」につながっていることを職員が意識すれば、市民にも分かりやすく伝えられるのではないかな。
- 多様化する価値観に一つ一つ対応することも大切だが、マスタープランでまちづくりのビジョンをつくり、そこに向かって、皆で進めていくという方法もあるのではないかな。
- ユニバーサルデザインタクシーの導入支援や顕彰など、民間企業の活動を促進する取組みは、行政だからこそできることであり、行政の役割は重要である。

6 閉会